

12²⁰⁰⁷
December

弘前大学

学園だより

題字：遠藤正彦 学長

VOL.157

CONTENTS

- I 巻頭言 2
- II 特集 「実習体験記」 4
- III 総合文化祭報告 16
- IV 研究室紹介 18
- V 海外だより 20
- VI 新任教員自己紹介 25
- VII けいじばんコーナー 25
- VIII 編集後記 26



制作 教育学部学生 對馬美代子

特集
「実習体験記」



I 巻頭言

自分を知り、 社会を知る

学生就職支援センター長
保田宗良



私が、学生就職支援センター長を務めるようになってから学生諸君に言い続けていることがある。それは「磨きをかける」というフレーズである。自分の資質に磨きをかけて、力を発揮できる基盤を作れという意味である。しかしながら、このフレーズには問題がある。一体自分にはどういう長所があり、どこを伸ばせば社会で力を発揮できるのかが分かっていないということである。当然のごとく学生諸君から上記の質問が続いている。そのためにはまず始めに自分を知り、社会を知らなければならない。

私が関心を持った書物を2冊紹介したい。2006年9月に出版された「城繁幸 若者はなぜ3年で辞めるのか? 年功序列が奪う日本の未来 光文社新書」と「小島貴子 就職迷子の若者たち 集英社新書」である。同時期に出版されたこの2冊の本は、企業社会のあり様をコンパクトに紹介している。自分探しを進める学生入門書に有益なものと判断している。

城繁幸氏は、成果主義のさまざまな問題点を指摘しベストセラーとなった『内側から見た富士通「成果主義」の崩壊』の著者として良く知られている。成果主義の論客である。先に紹介した本の中には、インターンシップやミスマッチについて言及しており、示唆に富んだ内容となっている。

小島貴子氏は、若者と社会や企業との橋渡し役として活躍する、カリスマ・キャリア・カウンセラーとしての活躍で知られ、勤務先の立教大学の学生を中心に就職がうまくいかない多くの学生と面談し、適切な指示を与え

ることを任務としていた。現在は、キャリアデザインの著名な研究者としても知られている。時間に余裕のある学生諸君は、これらの書物の一読を勧めたい。

以下、私なりにインターンシップについて整理したので、参考にしていただければ幸甚である。

インターンシップが始まってから一定の年月が経過し、範囲が拡大しつつある。学生に対して労働賃金を与えることもあり、参加企業も当初に比べると増大している。学生を受け入れることは社会的な責任であると位置付けている企業も少なくなく、かなり詳細なカリキュラムを用意している事例も見うけられる。

学生にとってのインターンシップ参加の利点と、企業にとってのインターンシップ実施の利点について整理する。

学生にとって、インターンシップに参加する利点は、夏季休暇期間に社会を知る機会を得られることである。短期間で企画に関わったり、報告書の作成を務めたり、アルバイトでは経験できないことを得られる可能性がある。短期間のアルバイトでは、単調な仕事を任されることが多く、責任感やモチベーションを上げることは難しい。

私のゼミを卒業した学生が参加したインターンシップでは、市長との討論も用意されていて、彼女は辛口の意見を呈したという。こんな機会はアルバイトではあり得ない。

学生は、毎日日誌を書き担当者のコメントをもらう。そうした双方向の

コミュニケーションが翌日以降の改善策の決め手となっている。アルバイトでここまで徹底指導しているのはほとんどない。

企業にとっての利点は、ミスマッチを少なくすることがあげられる。現在入社3年で3割強の新卒が離職するという実態が問題になっている。新卒者が企業に利益を与えるのは最低3年かかるといわれており、それまでは研修費のコストなどが持ち出しとなっている。3年たつてやっとペイ以上の仕事をするというわけで、早期離職は企業にとってマイナスである。離職率が高い企業という印象を持たれると社会に対しても都合が悪い。インターンシップ期間に、学生に職種の見極めを促してもらい、ミスマッチを減らすことは、企業にとって不可欠なことである。

企業にとっての利点として、人材発掘ということもあげられる。インターンシップ期間中に仕事に対する取り組み方や、モチベーションの高さを見極め、面接では見えない資質を探るという目的も指摘されている。

新卒3年以内離職には様々な理由があるが、採用に際して、ペーパー試験と3回程度の面接では学生の能力が見極められないという事情がある。面接の時の発言と入社後の態度が不一致で、入社後は条件ばかりつけ、実務に打ち込まない新卒者がいるという。実際の仕事ぶりを見たほうが採用後のリスクは確実に少ない。

技術者などを育成、発掘する目的でセミナーに近いようなインターンシップを行う企業もある。センスの





2006年インターンシップ報告会



合同企業説明会

良い学生にはラブコールを送る企業が少なくないと聞く。

私が訪問した県内企業では、次年度新卒採用の予定が無かったが、インターンシップに来た弘大生の態度に惚れ込み、また他の職業を模索していた学生もその企業に魅力を感じ、卒業後予定外の採用で入社したというドラマがあったと伺った。お互いにとって恵まれた事例であり、インターンシップにはこのような利点があることが分かった。

インターンシップの担当部署と新卒の採用担当部署は同一の部署であることが多い。したがって企業と就職支援センターは情報交換を通じ、より絆が深くなる。そうした別の視点による利点もある。

例年、11月にインターンシップの報告会が開催されており、誰でも出席できるようになっている。夏季休暇にインターンシップに参加した学生からの報告は、座学では経験できない現場の厳しさを垣間見たという内容が中心である。企業側の代表者からのコメントもあり、非常に有意義な報告会であるが、2006年までは残念なことに出席者が少ない。せめてインターンシップの参加者は余程の事情が無い限り出席して欲しいと念願しているが、学生諸君は時間に追われている日々を過ごしているらしく、盛り上がりにかけているのが惜まれる。(写真は2006年の報告会)

多数の1年生、2年生が出席し、質疑が続く、時間のやり繰りに追われ、司会者がうれしい悲鳴をあげるよう

な報告会が望ましいと考えている。

関心のある1,2年生は、講義の合間にもぜひセンターまで情報収集に来てください。写真の岩澤相談員と成田係長が親身になって相談に応じます。

本稿が掲載される12月は、学生就職支援センター最大のイベントである、2月に開催される合同企業説明会の準備に追われている時節である。学生課就職支援グループと学生就職支援センターのスタッフが手作りで準備を進めている。参加企業が掲載された冊子作りや参加企業との情報交換で、時には深夜にまで作業が続く。昨年写真の掲載しているが、盛況の様子が読み取れると思う。

この合同企業説明会も、突き詰めて言えば「自分を知り、社会を知る」一助となるものである。参加企業200数社との出会いは、学生諸君に多くの益をもたらすものになるろう。

先にあげた小島貴子氏の著書のp.73に会社で守るべきマナーが掲載

されている。

- 清潔できちんとした身なりと服装をする。
 - 自分から先にちゃんとした挨拶をする。
 - 私用電話は慎む。携帯電話は切る。
 - 遅刻はしない。
 - 事情があって約束の時間を守れないときは、必ず連絡を入れる。
 - 共用の備品は丁寧に使う。社用の事務用品を私物化しない。
 - 休暇は周りの人と調整して取る。
 - 上司だけでなく、同僚とも敬語で丁寧に話す。
 - 席を立つときは、行き先や用件、所要時間などを上司や同僚に告げていく。
 - 周りの人に不快感を与えるような表情、態度はしない。
- 当たり前のマナーであるが、すべて守るのは強い自覚が必要である。学生にも応用できることが含まれている。



岩澤相談員と成田係長



インターンシップで得たもの

現代社会課程 3年
木下 美穂

私は、8月7日から9日までの3日間、株式会社青森銀行本店でインターンシップをさせていただきました。私が青森銀行にインターンシップを申し込んだ理由は、もともと銀行業務に興味があったということと、インターンシップで学んだことを就職活動に生かしたいと思ったからです。

青森銀行でのインターンシップ初日は、まず青森銀行の概要について講義形式で学ぶことから始まりました。銀行の仕組みだけでなく、人事制度や就業規則、研修体制などについても知ることができ、とても参考になりました。また、ビジスマナーや電話対応の仕方についての研修では、正しい礼儀作法や言葉遣いなども学ぶ事ができました。

2日目は主に銀行内の見学をしました。私たちが普段目にする営業部も、行員の側から見ると全く違ったものに見えました。また、お客様用の大きな金庫や、株の売買を行っている市

場国際部、コールセンターなど、普段はなかなか見ることができないところも見学することができ、大変貴重な体験となりました。

コールセンターでは、他大学の方と他己紹介をしたり、チームになってゲームをしたりと、楽しみながらコミュニケーションスキルの重要性について学びました。

最終日は、礼勤の練習をしました。礼勤とはお札の勘定のことを言うのですが、これは予想以上に難しいものでした。簡単そうにやっている行員の方も、入行当時は全く出来ず、毎晩練習してやっと出来るようになったということを知り、仕事をする上で努力は不可欠なのだと感じました。実際に体験してみると、正確に勘定することの難しさや重要さはもちろん、努力することの大切さも学ぶことができました。

そして、今回のインターンシップの終わりには、実際に面接などの採用活動に携わっている方が、就職活動に対する心構えについて講義してくれました。企業側がどのような人材を求めているのかや、面接のときのアドバイ

スなど、興味深い話をたくさん聞くことができました。実際に面接官をしている方のお話を聞いたことは、これからの就職活動において必ず役に立つと思います。インターンシップに参加したからこそ、聞いたお話もあるのだと思いました。

また、インターンシップは他大学の方も一緒なので、同じ企業を目指す良きライバルにも出会うこととなります。私は、他のインターンシップ参加者から本当に良い刺激を受け、自分も頑張ろうという意欲がわきました。これも、インターンシップで得た大切なもののひとつです。

インターンシップに参加したことによって、私はより一層青森銀行に就職したいという気持ちが強くなりました。もし、インターンシップに参加したことによって、逆にその企業に対する関心が低くなったとしても、それは決して無駄ではありません。実際に見てみなければわからないこともあると思います。その企業を知りたければ、実際に自分の目で見てみるのが一番です。インターンシップはその手段として最適だと思います。絶対に損はしないので、みなさんは是非積極的に参加してみてください。



教育実習を振り返って

人間文化課程 4年
中村 香織

私は5月に、母校である青森県立三戸高等学校で教育実習をした。実習に臨むとき、四年前には生徒であったのが、今では「先生」と呼ばれる立場に立つことに戸惑った。そして2週間の実習の初日に、早速授業をすることになった。最初の自己紹介では、緊張して何を話したのかあまり覚えていない。自己紹介ですらこの状態なのだから、授業をきちんと行うことができるのか不安になった。そして教壇に立つと、生徒の様子が一目でわかることに気がつきものすごく緊張したが、落ち着いて等身大の自分で取り組むことを決め、とにかく一生懸命にやろうと思った。

私の担当教科は国語であり、学年は1年生と3年生を受け持った。1年生では国語総合『羅生門』（芥川龍之介）を、3年生は国語表現をそれぞれ担当した。

授業準備の際、授業をどのようにやるのだろうかかとふと疑問に思った。高校生のときに毎日のように、先生方の

授業を受けていたのに全くわからない。大学でもそれなりに学んできたが、実践となると初めてのことでどうしたらいいのかわからない、というのが本音だった。そして生徒は、ただ板書を写すのではつまらないだろうし、先生の話聞くだけでも集中力がもたない。私なりに教材研究はしたものの、それだけでは足りないと思った。「国語」を通して伝えられること、言いたいことを私の言葉で伝えたい、国語の授業を楽しみたいものだと感じてもらいたいと考えた。

そこで指導教諭のアドバイスをもとに、授業は生徒参加型のスタイルをとった。私からどんどん質問して生徒に考えてもらい、自分の意見を発表してもらった。また、場面のひとつを実際に演技するという活動も取り入れた。恥ずかしがる生徒、照れながらも役になりきって演じる生徒など様々だった。どう表現するか、ひとつの場面をどのように捉えていたのかを見ることができ、また、おもしろいと感じた。

私自身、毎日の授業の1時間を常に確かめながらやりたい、今の高校生の

考えを知りたいと思った。そのため授業には直接結びつかないが、たくさんの質問をした。2週間という短い期間では、クラスの雰囲気を知ることはできても生徒一人ひとりの考えや個性はなかなか知ることはできない。そのため、度々授業内容を脱線することもあったが、それもよかったと思っている。私が考えていることや、生徒が考えていること、そして私という人間のことを少しでも伝えられたらという気持ちがあった。「生徒」でもあり「先輩」でもあるみんなに、「先生」として「先輩」としてのアドバイスなどを多くしたように思う。

今回、実習を通して多くのことを経験し、自分自身成長をしたと思う。実習中は忙しく、難しいことはいっぱいだったが、終わってみるともう一度教壇に立ちたいという思いが強くなっていった。

これから教育実習に行くみなさんへ。実習において何か1つ知りたいことや、授業でやってみたいことを考えてみてはどうだろうか。それは、教育実習という場はいろいろなことを「試す」ことができるものだと思うためである。みなさんにはこの「試す」機会を存分に使って実習を有意義なものにして欲しいと思う。

介護体験実習を通して

生涯教育課程 2年
西村 未希

今回私は、弘前市にある「老人デイサービスセンター」に5日間お世話になり、介護体験実習に行ってきました。

今まで私は、日常生活の中で高齢者と交流をした経験がほとんどなく、会話したことがあるといっても、自分の祖母や親戚の人達と、年に1・2回話す程度だったため、デイサービスセンターを利用している高齢者の方々と、うまくコミュニケーションをとることができるか不安でした。しかし、実際にデイサービスセンターに行き、職員の方に1日の流れについて説明してもらい、仕事を体験していくうち

に、次第にセンターを利用している高齢者の方々と自然に会話ができるようになり、当初の不安はなくなっていました。また、高齢者の方々がとても気さくに声をかけてくださったので、私の緊張もほぐれ、5日間楽しく実習を行うことができました。

私がこの実習を通して感じたことは、高齢者を介護することは、体力的にも精神的にもとても大変なことだということです。私がお世話になった施設は、デイサービスだったので、それ程介護を必要としている高齢者の方は少なかったのですが、センター利用者の中には、軽度の認知症の方や、車椅子や人の介護がないと、日常生活が送れないような方もいました。職員

の方々は、常に利用者の様子を気にしながら仕事をしていて、人を介護するという仕事の大変さや、人間の命の重さについて深く考えさせられた体験実習でした。

5日間の実習を通して、高齢者の方々との接し方や、簡単な介護のやり方、車椅子の動かし方など、普通に生活しては経験することのできない貴重な体験をし、学ぶことができたこと、そしてなにより、自分の高齢者の方々に対する意識が変わったことが、私にとって大きな収穫でした。今後も、私同様、教員を目指す学生の皆さんには是非、介護体験実習を通して自分の視野を広げ、実習から得られたことを今後の学習に生かして欲しいと思いました。

学校生活体験実習を通して

生涯教育課程 2年
蝦名 沙季

1年次に行った教職入門に続いて、今回は学校生活体験実習に参加した。なぜなら、実際の教育現場に携わることで、さまざまな体験が教職への視野を広げると考えたからである。実習中は観察だけということであったが得るものは多く、また、たくさんの方に気づかされた。それは、実習1日目の帰りのホームルームの時間に、3年

生の実習生に「今日は新しい先生たちがきています」と紹介された時である。観察実習というかたちではあるが、「先生」と呼ばれた時、「学生」という気分であった自分の実習に対する意識の低さに恥ずかしくなった。このときから、実習に対しての意識が変わった。

授業観察をすることで、3年次教育実習に役立つことが発見できた。雰囲気づくりや発問の仕方など、客観的に観察できるので非常に勉強になった。

観察する際には、さまざまな観点を設け意欲的に観察することで、得るものは多いと思う。この観察実習を通して感じたことがある。それは、子供たちの感性を伸ばすことが求められているが、こうした中でまずは、教師が感性を高めていかななくてはならないということだ。生徒は必ずしも、言葉に表して意思を表現しているわけではない。ときには体で、眼差しで訴えている。教師は、この生徒の意思を敏感に感じ取っていく感性が求められると感じた。



インターンシップ体験記

生涯教育課程 3年
佐々木 望

私は、平成19年9月3日から7日までの5日間、株式会社協和コンサルタンツ東北支社においてインターンシップに参加しました。私の配属先であった計画グループは、主に東北各地のまちづくりに関わる仕事を請け負っています。現在その一つとして、民・官・学で進めている福島県喜多方市の蔵の研究では、市民や観光客への中間報告として「くらはく」という蔵

の博覧会イベントを目前に控えているところでした。私の実習課題は、全国の蔵の活用事例を調査し、喜多方市では今後どのような取り組みが考えられるかという点についてレポートにまとめるというものです。喜多方市での現地調査や会議へも同行し、コンサルタントの仕事を肌で感じる事が出来ました。また、課題レポートは社内でのプレゼンテーションを行い、いただいた講評をもとにさらに掘り下げた分析をしました。このレポートは、喜多方市に提

出する資料の一つになるということで、与えられた課題について良い緊張感をもって取り組むことが出来ました。

今回のインターンシップを通して、短期間ではありましたが、一つの仕事を仕上げるにあたっての流れを理解することができたように思います。今後の仕事と自分の関わり方、また、まちと自分の関わり方について実践を通して考えることができる機会となり、大変貴重な経験となりました。お世話になった皆様、本当にありがとうございました。



附属中学校実習を終えて

学校教育教員養成課程 3年
猪股 美佳子

実習が始まる前は楽しみというよりも、緊張と不安でいっぱいだった。しかし赴任式後、配属クラスに入ると歓迎会を準備してしてくれた。その生徒たちの気持ちが本当にうれしく、3週間前向きに頑張ろうと感じた。

授業においては出来るだけ生徒が主体的に活動・体験でき、楽しめる

ような授業をしたいと心がけた。しかし「体験させるときには体験させる」「話（授業）を聞かせるときには話を聞かせる」というように、授業内容によってもメリハリをつけることが大切である。10回の授業では、時間配分や説明する（人前で話す）ということは徐々に改善されていったが、生徒の主体的な意見を引き出すと言うことはとても難しく、生徒との信頼関係が成り立っていないとなかなか出来るもの

ではないと感じた。

実習Ⅱ期の日程は、期末テストや中体連があったため、実際生徒と関わることが出来たのは9日という本当に短い期間であった。しかしクラスや授業を通して生徒や先生方から学ぶことはとても多く、学校生活について学ぶだけではなく、自分自身を見直す良い機会にもなったと思う。この実習での経験を通して、これからの生活にも繋げていきたい。

ご指導くださった先生方、本当にありがとうございました。



幼稚園実習を通して

学校教育教員養成課程 4年
山一 裕紀子

私は2週間、弘前大学教育学部附属幼稚園で実習をしてきました。実習では、主に担任の先生のお手伝いをしながら子ども達と一緒に活動しました。

幼稚園では毎日のように子どものトラブルがあり、教師はその仲裁に入り援助をします。私は初め、解決するために必死に色々な案を考え、子ども

に提案して解決していました。しかし、ある時子ども同士で解決している場面を見て、子どもには解決する力が備わっているという事と、援助とは解決してあげる事だけではないという事に気が付きました。子どもが持っている力を認め、子ども同士で解決できるように「導く」ことや「見守る」ことも大切な援助であると理解することができました。子ども達が幼稚園での遊びの中において、これから生きていく

ための基礎を学んでいることを感じることができました。そしてそのための教師の援助というものは、幼稚園だけに限らず人との関係を築いていく上での基本となるものだと思います。教師は子どもに教えるだけではなく「子どもと共に育っている」ものだと実感しました。

実習は、実際のプロの方々の様子や現場を見て学ぶことができたとても良い機会であると同時に、何か新たな発見ができた機会となり、とても充実したものとなりました。



工業高校での教育実習を通して

生涯教育課程 4年
成田 俊世

私は、今年の夏に母校の弘前工業高校で教育実習を行いました。3年次に行われた教育実習とは違い母校での教育実習なので、学校の雰囲気を知ることは難しくはありませんでした。それよりも一番不安だったのは、生徒たちと仲良くなれるかということです。年齢が近い分親しみを持ってくれば良いのですが、からかわれたりしたらどうしようと考え

てしていました。しかし、教育実習の1日目に学校へ行くと元気なあいさつが飛んできて、不安は吹き飛びました。

こうして始まった教育実習ですが、専門高校である工業高校は分野に特化した授業を行うため、専門的なことが多くなります。私自身が高校時代に学んだことを今度は教師という立場で教えなければならないのです。誰かが言っていた言葉に、「人に一のことを教えるには自分は十のことを知らなければならない」という

ものがあつたのですが、まさにそのとおりだと思いました。教える立場になって先生がどれだけ苦労していたのかということがわかりました。また、学級担任としても生徒との接し方や言葉遣い等を学ぶことが出来ました。文化祭の直前だったこともあり学級の活動にも参加できたので、生徒たちとはすぐに仲良くなる事が出来ました。

今回の実習では様々なことを得ることができましたので、実際に教員になったときに活かしていきたいと思いました。



実習体験記

医学科 1年
森 礼佳

夏休み半ばの9月の前半、入学して初めての实習に取り組む事になりました。夏休み中ということで、実習の前は「楽しみ」という気持ちと「面倒だ」という気持ちが半々でした。オリエンテーションで諸注意を受け、コミュニケーションについてのお話もしていただきました。普段から学校生活で多くの人とコミュニケーションはとっているため、別段変わったことはないのではないかと甘い考えのまま5日間の実習にのぞみました。

私は後半グループなので、最初に学外施設での実習でした。弘前大学からそんなに遠くない、静光園というところにお邪魔させていただきました。入ってみると中はとても綺麗で、職員の方々も優しく迎えてくださったので、3日間頑張れそうだと意欲もわきました。環境を整えるということは当り前のことだけれども、それが人の感情に大きく関わってくるのだと感じました。

まず、静光園の生活相談員である鳴

海さんのお話を伺いました。事前に施設についての調べが足りず、初めて聞く説明ばかりでした。この早い

段階で、甘い気持ちでのぞんだことが悔やまれました。鳴海さんの説明によると、静光園というのは「特別」養護老人ホームであること、よって、介護度が高い方々が入所しているということでした。介護度は数字で5が最高なのですが、静光園の入所者の平均は4.7ということで、普通の老人ホームとは少し違う、とおっしゃっていました。

説明を終えて、いざ上階の入所者がいる食堂に行くと、想像していた施設とは違う部分が多々ありました。自力で歩いている人は全体の一割よりも少なく、他の方は車椅子で移動している状態でした。大きな声で叫んでいる人や机をたたいている人もいました。初めてその光景を目の当たりにした時、正直上手く接する事ができるか不安になりました。その不安は的中し、話しかけても応えてもらえなかったり、強い言葉で怒られたりしました。一気に消極的になってしまい、何をしたらいいのかわからなくなってしまいました。私がただ立っているとス

タッフの方が優しく、「みんな悪気があつて応えない訳じゃないんだよ。認知症の方や脳に障害のある方がとても多くて、思ったとおりに感情表現できないから怒った感じになってしまうの。だから、ちょっと辛いかもしれないけど笑顔で話しかけてあげて？」と声をかけてくれました。その言葉を聞いて、今まで私がいかに自分の感覚で考えていたか思い知らされました。私たちは介護をするためにいるのに、相手の立場に立って考えることができなくなったら仕事は成り立たないのだと実感しました。その他にも、入所者の方の状態を把握して、自力で出来そうなことは手伝わずに見守ってあげる事も大事なのだそうです。あくまで「施設」は自力で生活できるように助長する場所であり、生活を助けてあげる事が主な目的ではないそうです。

今回の学外実習では本当に多くのことを学ぶことができました。介護とは医療の根本的なものであり、これから医療に携わっていく私たちとしては、忘れてはいけない大事な基本を学べたと思います。人から教えてもらうのではなく、実習を通して自分で気付いていくということを繰り返し、将来に繋げていきたいと思っています。

五日間の修業

医学科 1年
鈴木 美耶子

「病院に行っても、意思表示ができないために医師から毛嫌いされてしまうの。重度の知的障害者は治してもらえないという現状を鈴木さんには知っておいて欲しいの。」私をお世話して下さった知的障害者施設さくら園スタッフの成田さんが、実習初日のガイダンスでおっしゃった。

介護の現状を体験するのは初めてであり、1日目ははりきりすぎて午前中だけでくたびれてしまった。うまくコミュニケーションできず、昼休みも思うようにとれず、自分のふがいなさや疲労で頭がいっぱいだった。始めに言われた成田さんの言葉を頭では分かったつもりでいたが、いざ現場に行くとどうしても自分の感情が先立ってしまう。振り返ると、自分に余裕がなくなり人を思いやることができなくなってしまっていた。その時の私はとても話しかけ

づらい雰囲気を出していたに違いない。

あまりにも疲れて入所者の方と一緒に寝転がってい

たら、「一人多い！」とスタッフの方に入所者と間違えられた。みんなで大笑いしたことで肩の力が抜けた。私の方が入所者の方々に受け入れてもらった気がした。それから入所者の方々からたくさん話しかけられるようになった。「腕、筋肉、すごい。何か運動やっているの?」「剣道しています!」「お、格好いいね。」疲れていたことを忘れ、やっとうまく会話できた事がとても嬉しかった。暖かいやりとりの中でだんだん笑顔が増えていった。

今の私は階段を自在に移動できる。意思疎通の手段が限られている人に対して、動ける人が視線を合わせなければ円滑なコミュニケーションはできないだろう。「視線を合わせる」ということ、そして自分が医師となって現場に出た時に重度の知的障害者とどのように接していったらいいのか。なんとなくだがこの実習の3日間で掴

めた気がした。

大学病院実習では第二病棟7階の眼科に行き、看護師さんの後をひたすら追いかけていた。部活で鍛えられている分体力には自信があったのだが、看護師の仕事は予想をはるかに超える重労働だった。広い病院内を縦横無尽に駆け回り、座ることもほとんどなく、その場その場で出る指示を的確にこなす。専門の科の事だけでなく、食事の配膳から剃毛まで行い、衛生にも細かく気を配る。走らなければ見失ってしまう程のフットワークの軽さと仕事の多さに、看護師という仕事の大変さが身にしみて分かった。将来、医療を進めるパートナーとして共にハーモニーを奏でられるような理解ある医師でありたい。

日常とはまったく違う世界を体験することで、自分の内面を見つめ直すことができた。決して楽ではなかったが、とても有意義な経験をさせてもらった。足手まといを承知の上で実習を受け入れて下さった大学病院、さくら園の皆さん、患者さん、そして入所者の方々には本当に感謝している。



BSLを半分回っての感想

医学科 5年
三橋 達郎

先週の精神科が終わり、4月から始まったBSL（病院実習）も半分を過ぎました。最初は病院の中でさえ迷ってしまうほどでしたが、今はその様な事もなくなり、充実した実習生活を送っています。

最初に回った科は総合診療部でしたが、加藤先生が優しく僕達の緊張を取って下さり、その後の実習にスムーズに入って行けたのを覚えています。また、どの科を回るにしても、いつも先生方の質問に答えられず、答えられないどころかとんちんかんな事を言ってしまうのも度々でしたが、大学病院の先生方は皆さんとても親切に教えて下さり、とても感謝しています。おかげ様で僕も半年前とは比べものにならないほど知識が

たと思っています。病院の中の一員とさせて頂く事で考えさせられた事はたくさんありました。まず最初に

グループの一員としてカンファレンスやプレゼンテーションに参加させて頂くだけでなく、自分でも発表させて頂く事により、将来医師に必要な不可欠な「自分の考えを他人に伝える」という事の基礎を学ばせて頂けたと思っています。また、自分の班のメンバーの担当患者さんが亡くなった時には、医師としてこれからたくさん経験していかなくてはならない患者さんの死について考えさせられ、もう自分は生と死を扱う特別な職業に近づいているという事を再確認しました。最後に、受け持ち患者さんをもたせて頂いた科では、医師としての責任の重大さを実感しました。学生といえども、患者さん達はわからないことはどんどん聞いてくるし、診察も身体を診

てくれるなら喜んで受けて下さる方ばかりでした。そこで患者さんの質問に答えられなかったり、お粗末な診察をしてしまった時はとても情けない気持ちになり、もっと勉強しなくてはならないという気持ちになりました。

この半年間で患者さんから学んだことをあげればきりがありません。どの患者さんも2週間経ってお別れをしにいくと「頑張ってお勉強していい医者になって下さい」と言って下さいました。僕の勉強と一緒に付き合っただ下さった患者さんの気持ちを背負いながら医師までの1年半を走り抜けて行きたいと思っています。

まだBSLは半年残っています。来年になってもっとしっかりやっておけばよかったと後悔する事のないよう、回らせて頂く科それぞれの目の前の課題に全力で取り組んでいきたいと思っています。

まだまだ未熟者で先生方にはご迷惑をおかけしてしまうと思いますが、これからよろしく願い致します。

BSL体験記

医学科 5年
吉田 健太

臨床実習。講義と試験勉強で得てきた知識を使って、実際に診察し、検査結果や画像を読み、診断し、治療法を考える。いよいよ臨床医としてのはじめの一步が踏み出せるという期待を胸に、BSLは始まりました。が、始めて数日で壁に突き当たりました。何ひとつ思っていたようにできません…。知識は断片的で、一問一答で通用するようなものでしかない。診察しても、画像を見ても、その所見が正常なのか異常なのかあやふやである。やっとの思いで病名が思い浮かんでも、治療方針はどうすると尋ねられて、手術、薬物治療、放射線治療とは答えられても、具体的には…。自分の知識や手技が、あまりに未熟であると思知らされました。

それから1ヶ月、2ヶ月と毎日臨床の現場で実習をするにつれてだんだんと自分が何ができないのかが分かかってきました。講義のプリントや教科書の知識はもちろん大切なことだと思いますが、知識があることはあくまで前提条件でしかなかったのです。知識を基に、自分で考えて自分でやることができるのが、臨床では求められて

いることにやっと気付きました。いくら教科書の〇〇徴候や××サインを多く知っていても、そういうもの

を目の前にした時に自分で判断して方針を考えられなければ、その人はただの医学知識クイズ王です。実習中、本を読んで知らないことや忘れていたことを勉強することは必要だとは思いましたが、それよりも、自分が医師になった時にしなければならないことを身につけることに実習の本当の意味があるのではないだろうか、と感じるようになりました。それは、実際に生身の患者さんを前にして初めてわかってできるようになるもので、逆に、患者さんからしか学ぶことのできないものだと思います。直腸癌の手触り、肺水腫の打診音、肺炎の時の呼吸音、病気が回復・悪化していく時の心理状態、人が亡くなるということ…患者さんから学ばせてもらうことは実習の中にあふれていました。そこで、私は、各科で自分の担当患者さんを持たせてもらった時は、暇さえあれば患者さんに会いに行き、訴えや細かい変化を自分なりに考えて分析し、できるだけ多くのことを吸収しようとしました。病室を訪れるのがあまりに頻回になり、「看護師さんはいつもよく来てお世話してくれるわねえ」と言

われたことさえありました(笑)。こうして患者さんと接するようになって初めて学んだのは、「病気」というものの捉え方についてです。本を読んで知るのとは文字で書かれた病気の内容ですが、実際に医師が相手にするのは病気をを持った人間です。そこに病気があるのはもちろんですが、患者さん自身の性格、精神状態、社会的状況、医師への信頼、など様々なものが複雑に関わっています。試験問題のように正しい答えが常にひとつではなく、今やっている検査や治療法が果たして正しいのかどうかが最後までわからない場合や、それどころか、患者さんのその後の生き方を考えると治療しないのが最善だろうと思われる場合、幾度もありました。それらのことを含め、患者さんを通して学ぶことは非常にリアルなものが多く、未熟であっても一応、医師と同じ目線で考えて得られたものです。このような目線が、実際に臨床に出たときに使う考え方のだろうと私は確信しています。

学生時代の臨床実習は医師としてやっていく上で、基礎中の基礎を作るものだと思います。机ではなく、ここでしか学べないことがあるからです。数医者にならないために、より患者さんの力になることができるように、あと数年後に自分自身が医師になるという自覚を持って、残りの実習も有意義に過ごしていきたいです。



実習体験記

看護学専攻 3年
田中美幸

大学に入学して3年半が経ち、いよいよ本格的に病院での実習が始まりました。基礎実習とは異なり、患者様に必要な看護を自分で考え、実行していくこととなります。自分が行うケアで、患者様が良くも悪くもなるということで初めはとても不安でした。しかし、その分やりがいもあり、先生方や看護師さんから助言を頂ながら頑張っています。

看護には、成人や母性など様々な領域があります。今回私は小児看護学実習を、周産母子センターで行わせて頂きました。周産母子センターでは、低

出生体重児やハイリスク新生児に対する医療を行っているため、他の病棟とは異なる面が数多く見られました。その中の一つは、センターでは児と看護師全員が同室にあり、児の様子を24時間観察できるということです。小児は、年齢によって自分の体調や欲求を言葉で伝えることが難しい子もいます。センターにいる児は、生後数日から数ヶ月であるため、なおさら不可能です。よって、表情や泣き方など、日々の観察から得る情報が非常に重要となってきます。

児を観察していると、その子に特有の所見が見られることが多々あり、そういったサインを見つけたときはとてもうれしいものです。ほんの些細な

サインでも、時には生命に関わるものになるかもしれません。現在は、モニターを通して詳細に患者様の状態を把握することが可能です。しかし、モニターばかり見て患者を見ないので、心のない看護になってしまうのではないのでしょうか。実際に患者様と接し、手で触れ、耳と心で聴き、愛情を持って話しかけながら見ていくことで初めて、患者様を理解することへつながるのだと思います。

これから小児以外の実習も始まり、多くの患者様と接していくこととなります。その中で、私は「人」を見た看護を提供していきたいです。患者の中の一人ではなく、対象となるひと個人を見て、患者様にとって少しでも利となる看護を行えるよう、今後の実習に取り組んでいきたいと思っています。



14週分の2週間を終えて

検査技術科学専攻 3年
福地香

「学校で習ったことなんか、就職しても何の役にも立たない」とは良く聞く台詞ですが、私たちがこの2週間実習を行った部門の場合、その枠にははまらないようです。

教師の心学生知らず、とも言うべきでしょうか。授業の実習で行ったときは、本当に病院でやっているのかと疑ったような検査も、当たり前教科書に沿って日常業務として行われています。先生方からしてみれば、当然だ、と思うことなのでしょう。確かにそう習ったのですが、実際に目の当たりにすると、妙な感動すら覚えてしまいました。

また、授業で学んだこと、実習で行ったこと、ないがしろにしたつもりも軽く考えたつもりもありませんでしたが、教師の機械化が進んでいると聞いていた自分は、どこか甘えていたようです。機械化とは言っても、人の手で行わなければならないことはまだまだありました。機械化が進むということは、知識が浅くても可能というのではなく、元々持っていない知識に加え、機械を扱う知識を持たなければならないのでした。患者さんの検体は、機械にかけられるものもそうでないものも混在し、機械は調子を崩すこともあり、更にそこに至急のものも割り込んでいきます。ルーティン業務とは言っても、何の変化も無いわけではあ

りませんでした。ずらりと並んだ専門書を読み、機械を扱ってマニュアルでの検査もそつなくこなしていく技師さん方は、単純に格好良く見えました。

自分の知識の浅さに打ちのめされ、簡単な業務にも手まどって申し訳なさをいっぱいになり、それでも見放さずに根気よく教えて下さった技師さん方に感謝しながら14分の2は過ぎていきました。それでも私は、この2週間をどこか楽しんでいた気がします。そうして、これからの実習をも楽しみに思っている節があります。そんなものは自分の努力次第だということなど分かっているのですが、14週を終えたとき、少しでも成長していたら良いな、と望んでいる私がいるのです。





臨床実習を振り返って

放射線技術科学専攻 4年
荒井 達哉

3年後期と4年前期に行った臨床実習を振り返ってみると、初めての事だらけで、常に緊張の連続であったと思います。

実際に臨床の現場に入って実習を行って学んだ事は、放射線技師としての仕事内容はもちろん、放射線技師の役割、患者さんへの対応の仕方などたくさんありました。

実際の臨床の場で実習生が出来る事というのは限られてくるわけですが、その中でできる限りやれる事、例えばCTやMRI、一般撮影での患者さんのポジショニング（撮影の位置決

め）などを積極的に行うことができたと思います。一般撮影、血管造影、CT、MRI、核医学、治療等、放射線には様々な部門がありますが、それぞれの部門での技術的な事や最新の診断装置もたくさん見ることができ、またどの部門においても医師や看護師との連携が必要であるという事も学びました。

臨床実習は、先にも書きましたが常に緊張していた気がしましたし、患者さんもいるので、当然笑って話をしながら実習したり居眠りしたりする事は許されません。そのため、臨床実習は只々つらいものに感じる時が多いのですが、楽しかった事やおもしろかった事もありました。その内の1つが、技師の方々とコミュニケーション

ンです。技師さんはみないいい人達ばかりで、話もおもしろく、何より自分が実習中に分からなかった事や、疑問に思っていることを気軽に質問できるので、そういう点でも自分自身の理解につながっていったと思います。また実際に患者さんと会話したり、検査の説明をしたり、ポジショニングまでやらせて頂けるので、放射線技師としての将来の自分を実感し、また自覚できるというのも実習の楽しさの1つであると思います。

技師の方々や患者さん、病院スタッフの方々には何かと御迷惑をおかけしたかもしれませんが、この臨床実習を通して、自分自身、技術的な事だけでなく、人間的にも一回りも二回りも成長できたと思います。実習でお世話になった多くの方々へ心より感謝致します。



実習をふり返って

理学療法学専攻 4年
新渡戸 紗都

私たちの専攻では、3年後期から4年前期にかけて病院での長期臨床実習（1回につき約2ヵ月間）が3回あります。実習地は、北は北海道、南は東京までであるため、22人が全国に散らばります。私は、3回の実習で多くものを得ることが出来ました。実習で得たこと、そして考えたことを以下に述べさせていただきます。

実習で得たものはたくさんありましたが、その中でも初めての实習でことが印象に残っています。私は、3年生の10月、初めての長期実習とい

うことで、実際の臨床の雰囲気になれることで精一杯の毎日でした。学校で問題を解いている時とは異なり、目の前にいるのは障害を持った患者さんです。私が患者さんに出来ることはあるのだろうかと不安でした。そんな中で、私は実習指導の先生に「実習終了後患者さんの病室に顔を出してみたらどうか」という助言を頂き、約1ヵ月間毎日患者さんの病室まわりを続けました。実習終了日、一人の患者さんが泣きながら、「こんなに応援してくれている人がいるのだからこれからはリハビリを頑張る、毎日来てくれて嬉しかった、ありがとう。」と言ってくれました。脳卒中発症後、ふ

さぎこんでいた患者さんです。私にも出来ることがあると、その時はじめて実感しました。そして、実習指導の先生が、「こんなふうに全ては患者さんが答えを出してくれるのだよ」と教えてくれました。患者さんの前に立つことの厳しさ、自分に出来ないことと恐れず、今自分にできる精一杯のことを患者さんにすることの大切さを学びました。

3回の実習を終えた今、もう実習生という立場で患者さんの前に立つことはなく、次に患者さんの前に立つ時は、一人の理学療法士としてです。未熟な実習生に嫌な顔一つせず協力してくれた患者さんたち、忙しい中時間をさいて指導してくれた先生方への感謝を忘れず、臨床に出て、実習で感じたこと、得たことを大切にしながら頑張っていきたいと思います。



実習を終えて

作業療法学専攻 4年
西 道 弘

今回の実習では3年次の実習のときとは違い、評価から治療まですべて一人で患者様と接していかなければならず、自分自身が何事にも責任を持って、実習を行わなければなりません。

実習に行く直前は、学校や家で想像だけで何をしたらいいのか、何をしようかと考えるだけで終わっていたことが、実習中は患者様がどのような反応をするのか想像しながら実際の反応も分かり、対応の仕方を考えさせられました。また、何が患者様のためにな

り、どのようなことを望んでいるのかを考えることも必要だと思いました。考えることの大切さや、人とのふれあいの大切さを知ったような気がしました。

実習に行くと、自分ひとりでプログラムの立案をすることや、スタッフの方々がどのような治療方法で治療をしているのかを見ることができ、何のためにその治療をするのか、どういう流れで計画を立てていけばいいのかを考えられたことが良かったと思います。

しかし、実習の初めごろはどのようなことをすればいいのか分からず、緊張してとても固くなっていました。ま

た、スーパーバイザーの先生のおっしゃっていることを見ているだけで、自分はいま患者様に接することができず、やりたいことも、言いたいこともほとんどうまくはできませんでした。しかし、実習後半には緊張も解け、患者様の思っていることや考えていることを聞け、始めよりうまく接することができるようになったと思います。

前半の実習と後半の実習では違いが多く、病院の違い、分野の違いもあり、患者様との対応の仕方や内容がまったく違っていました。また、自分にはどんな病院でどのような分野があっているのかを考えることもできたと思います。これからも実習で行ったことや考えた経験を生かして、今後の学校生活、卒論や就職活動に取り組んでいきたいです。



教育実習を終えて

物質理工学科 4年
古川 裕太郎

私は今年の5月に母校の弘前南高校へ教育実習に行きました。母校ということもあり、全く知らない学校に行った実習生よりは、気が楽だったと思います。

大学に入学したときから、教員になりたいと考えていたので、教育実習に行くことは、そのときから決めていました。ところが実習校が決まり、実習のときが近づいてくると、緊張してくると同時に、自分が生徒の前で授業をすることに照れくささを感じていました。そこで教職科目を担当している先生の言葉を思い出しました。「教育実習はこれまで講義の中で勉強したことを、実際に現場で実践してることが大きな目的である。けれども、自分が果たして教師に向いているのだろうか、教師になったとして、続けていけそうか確認することも大事な目的でもある。」この言葉で、教育実習が遊びではない、真剣なものであると気持ちを切り換えることができました。

実際の教育実習は予想していたものよりも大変なものでした。実習は、朝早くから始まります。その日の授業の準備、HRでの連絡の確認、朝学習の準備などやることがたくさんありました。朝は本当に忙しくて、1時間目から授業があると、教職員の朝会、朝のHR、授業と休む時間もなく授業があるので、学級への配布物、教材など持って廊下を走らなければならないほど、時間に追われました。

空き時間は担当教科の指導教員と

打ち合わせ、HR担任と打ち合わせ、教材研究、実習日誌の記録と気の抜けない状態でした。放課後は空き時間の内容に加えて、部活動や生徒会にも参加し、帰る時間は学校が閉まる直前というのがほぼ毎日でした。実習中は帰宅してからも、夜遅くまで教材研究に取り組み、気がつくと2時、3時というのが当たり前でした。

授業は生徒に理解しやすいのももちろん、1時間のうちに生徒を飽きさせないような工夫も必要で、満足のいく授業になったものではありませんでした。生徒の理解の仕方が個人によって異なることが大きな問題になりました。授業で学習した内容の問題演習を行ったところ、理解している生徒はどんどん問題を解き、準備していたプリントでは追いつかないくらいになるのですが、まだ自分一人の力では解けない生徒は時間が足りない状態と、40人のクラスを相手に授業することが大変なことだと実際に感じました。ただその分、生徒が理解したと反応してくれたときの感動は大きなものでした。これは実際に授業をしてみた人でないとはわからないと思います。

教育実習で最も楽しかったと感じたのは放課後でした。生徒たちに混じって掃除をしていると、彼らから声をかけてきてくれて、とても楽しむことができました。立場は先生なので発言の内容には気を使わなければなりませんでしたが、年齢が近いとはいえ、彼らが何に興味を持ち、普段どんなことを考えているのか、少しでもわかったことは勉強になりました。部活

動に参加すると、授業中では見られない、生徒たちの顔が見られました。普段は口数が少ないが、放課後はチームを引っ張っていく立場の生徒、好きなことに熱中している生徒と、彼らのとてもいい顔などを見ることができました。この放課後のやり取りがあると、次の日はより彼らと親しくなることができ、充実した教育実習になりました。

担当教科が化学だったので、授業の中に実験を取り入れることになり、準備や予備実験をしたことは、とても勉強になりました。予備実験では上手くできなかった内容があり、内心不安でいっぱいだったのですが、本番では成功し、生徒が実験に夢中になる姿が、さらにやる気を出させてくれました。実験の感想の中に、とても面白かった、化学が好きになりました、というようなものがあり、うれしさのあまりに感想文を読み返すほどでした。

実習最後の日に、担当したクラスの生徒たちから、大きな花束と全員の名前の入った色紙をもらい、感動の涙が出ました。実習期間中に体調が良くなかった生徒が、最後に色紙と挨拶がなかったと登校してくれたことは、この先、忘れることのない思い出になりました。指導して下さった先生から、「教員生活は辛いことの方がはるかに多いけれども、感動やうれしさは他のどんな職業にも負けない。私は教師になってよかったといつも思う。」と言われたときは、自分も教育実習にきて良かったと心のそこから思いました。実習中にお世話になった先生方、たくさんの感動を与えてくれた生徒たちに、今でも感謝の気持ちでいっぱいです。





教育実習体験記

生物生産科学科4年
上田 浩人

「先生おはようございます！」

実習初日の朝、生徒に挨拶されるところから私の2週間の教育実習が始まりました。実習初日、私は期待と共に大きな不安を抱えていました。それもそのはず、何と私はこの時点でこれから自分は何年何組を担当し、高校理科のどの教科(物理、化学など)を教えるのかを知らなかったのです。もちろんどの分野を教えるのかもわかりませんし、教科書ですらも貰っていませんでした。何故こんな事になってしまったかといえますと、実習の始まる1週間前に事前出校という、実習生が自分の担当クラスや教科、どの分野を教えるのか等を教えていただく機会がありました。本当はそこで色々教えていただく予定だったのですが、私の教科担当の先生が出張をしていたため、ほとんど何も教えて頂けなかったのです。ということで指導案など授業の準備が何もできていない状態で私の怒涛の教育実習が始まりました。

初日は朝の職員会議や担当するクラスのホームルームで簡単な自己紹介をしました。その後、教科の先生との打ち合わせを終え、私は1年生の総合理科と2年生の化学、生物をそれぞれ1クラスずつ受け持たせて頂く事になりました。そして2週間の実習期間のうちの初めの1週間は高体連との兼ね合いもあり、午前中しか授業が無い臨時時間割になっていたため、実習生が行える授業数が少なくなってしまうことでした。その為少しでも早く授業をやろうということになり、なんと実習3日目から授業を行うことになりました。それから校長先生、教務主任、進路指導主任の話を聴かせて頂いたり、掃除指導をしたり、

教科担当の先生の化学の授業を見学させていただきました。そこで初めて教師という立場から授業を観察すると、高校生だったときには気づかなかった先生の授業の進め方や話し方、黒板の使い方等のテクニックに驚きました。教師は授業のプロなんだなぁと心から思いました。その後、いよいよ次の日に迫った初授業の準備に追われ、あっという間に2日目は終わりました。いよいよ3日目、緊張の初授業である生物を教えました。このクラスには見学にすら行っていなかったため、生徒や授業の雰囲気、そして初授業というプレッシャーがあったのですが、生徒がとても協力的でとてもやりやすかったです。また授業をひとつ無事に終えることができたお陰でその後の授業はとても楽になった気がします。このような前日に準備→次の日に授業というぎざぎざの日程ながらも教科の先生のフォローもあってなんとかこなしていききました。

さて、ここまでは授業の話でしたが、今回の教育実習で私の中でこれらが目標という3つの目標がありました。それは生徒にわかりやすい授業をすること、生徒と積極的に交流を深めること、積極的にサークル活動に参加することの3つでした。生徒との関係づくりでは初めの1週間、とにかく自分のホームルームクラスの生徒に話しかけ、名前を覚えさせました。その日話した生徒には必ず名前を聞き、その後写真つき名簿と睨めっこをして暇があれば名簿と生徒を照らし合わせていました。何日かしてよく話していた生徒が「先生俺の名前覚えた？」と皆の前で聴いてきたのですが、その数秒前にその生徒の名前を確認して

いたためフルネームで答えることができました。するとこの先生に名前を言ったら覚えていてくれるといういい流れが生まれ、生徒の方から名前を教えに話しかけてくれるようになり、このような綱渡り状態ですが徐々に交流を深めていくことができました。また、初めに生徒に名前やサークル、マイブーム、先生(私)に一言といった簡単なアンケートを書いてもらったので、顔と名前以外にも情報が揃い、スムーズに名前を覚えることができ、また生徒と話す時の話題にもなりました。これは来年実習に行く人達には本当にお勧めします。最後にサークルですが私は高校時代、ハンドボール部だったということからハンドボールの顧問補助として指導することになりました。やはり、自分のやっていたスポーツなのでとても思い入れが強く、また後輩たちもモチベーションが高いということもあり、アドバイスや注意を素直に受け入れてくれたりするので、すぐに交流ができ、楽しく指導をすることができました。サークルは実習期間中の土日を含むほぼ毎日ありましたが決して苦ではありませんでした。むしろ自分が実習に来たことで貢献できているなという実感を持たせてくれたり、知らないクラスでも部活の後輩がいるとうまく溶け込めたりと、とても有難かったです。初めの1週間を過ぎるころには毎日がとても楽しくなり、何より生徒がとても可愛く、早く生徒と会いたいと思うくらいでした。辛く大変な授業の準備も、生徒たちにわかりやすい授業をしたい、慕ってくれている生徒に無様な授業はみせられないといった強い気持ちがあったため乗り切ることができたと思います。

私の実習は生徒がいなければ乗り切れなかったとも思います。スタートは本当にどうなることやらと思っていた教育実習ですが、先生達の暖かい助言や生徒の支えのおかげで最高の思い出になりました。最終日にクラスから花束と色紙、そして部活や授業に行っていたクラスからも色紙をもらいとても感動したことを覚えています。拙い文章で申し訳ありませんが実習の感じを少しでも伝えられたらいいと思います。最後にたった2週間の実習でしたが教師の大変な面、楽しい面の両方をほんの一部体験することができたと思います。その上で、教師という仕事はすばらしいと感じた実習でした。教師最高!!!



ホームルームクラスの生徒と私





アルバイト教師
 大学院
 農学生命科学研究科 1年
佐藤玄樹

もしも、「3日後から高校教師になれ」と言われたら、できますか？ 教職を目指している人でもない限り、ほとんどの人は「できない」と答えるだろう。ところが、知らぬ間に自分が教師になると決定していたら？「できる」「できない」ではなく、「やるしかない」のである。

大学院入学を控えた春休み。卒論も終わり、実家に帰ってほっと一息。そんな時、大学の教員から電話が来る。内容は、高校でパソコンを教える「バイト」をしないか？ というものである。教員免許を持っていない私に舞い込んだ、こんな「バイト」のお誘い。おそらく、授業の補佐、大学のTA（ティーチング・アシスタント）のようなものだろうと、勝手に解釈をする。教員から「パソコン得意だね」とおだてられ、軽々と引き受けてしまう。すぐに、高校の担当者に電話をする。その電話のみで、採用が決定してしまう。一度、高校に顔を出してほしいと言われるが、帰省先から戻るまでは無理だと伝える。もしも「バイト」の内容を知っていたら、全ての予定を切り上げて高校に飛んで行っただろう。結局、一度も高校に行かないまま、担当するクラス、時間割など、全てが決まってしまう。

初めて高校に行ったのは、授業開始の僅か3日程前。事務室で、担当者から「バイト」の概要について説明を受ける。その時はじめて、授業は自分一人でやること、この「バイト」には教員免許が必要なこと、自分が本物の教師になることを知る。教員免許を持っていないことを話すと、事務室があわただしくなる。急遽、臨時の教員免許を申請する手続きを行う。そして、3日後。教育実習すらしたことがないのに、一人で教壇に立つ。まだ、免許も申請中である。しかし、生徒から見ると、そんなことは関係ない。この時点で、一人の教師である。

それでも、どうにかこうにか授業を行う。なんとか慣れて、教師姿が板に

ついた頃。生徒も学校に慣れてきて、まじめに授業を受けない者、不正行為を行う者がでてくる。教師であれば当然、注意をしたり、叱ったりするべきである。しかし、それができない。叱る事って、思った以上に難しい。でも、不正行為は許せない。頭に来る。そして、注意や指導とは程遠い、感情的な怒鳴り方をしてしまう。あるいは、切り捨てるような冷たい態度をとってしまう。大人が相手ならまだしも、高校生相手ではあんまりではないか。そもそも、自分が教師になった経緯を考えると、生徒に御立派な指導などできるはずがない。しかし、一教師として、最低限の指導はしなければならない。でも、自分は将来、教職を目指すわけでもない。自分はなぜこんな仕事をしているのか？ なぜ悩まなければならないのか？ 自分が教師になったことの意義を見出せない、ただ忙しいだけの、悶々とした日々が続く。

気張って授業をしても仕方がない。他の先生とは違うかもしれないけど、自分なりの授業をやることにする。まず生徒に、自分は現役の大学院生であると打ち明ける。これだけで、多くの生徒が親しみを持ってくれる。中にはナメてかかるようになる者もいたが、生徒全員に好かれようなどおこがましい考えは捨てて、自分なりの指導をする。「授業中に寝るのは勝手、騒ぐのは迷惑だからやめろ」「勉強はできなくてもいい、不正だけはするな」「携帯電話は使わない、使うならコッソリしろ」と、模範的な教師ではないが、自分自身に正直な授業をする。すると、生徒が集中し、楽しそうに授業を受ける。生徒と仲良くなる。ナメてくる生徒も、あきらめて静かに授業を受ける（か、寝る）ようになる。しかし、いくら生徒と仲良くなっても、友達になってしまうのはまずい。「一緒に遊びに行こう」や「メールアドレス教えて」と頼まれることがあるが、ここは堪える。我慢する。本音で、等身大で、それでも最低限の一線を引いて、生徒と接する。

生徒に受け入れられ、授業も軌道に

乗るが、困った問題がひとつ。生徒の顔を覚えられない。私は、人の顔を覚えるのが苦手である。当然、100人もの生徒の顔を覚えるのは至難である。実は、この文章を書いている10月現在でも、まだ生徒全員の顔と名前が一致しない。しかし、顔を覚えられないもっと大きな原因が、他にある。パソコンの画面が生徒の前に置かれている。顔が見えない。顔が見えないと、覚えられないわけがない。そうやって自分に言い聞かせ、名前を呼び間違えたときもそうやって生徒に言い訳をする。偉そうなツラして授業をしている先生が、生徒の顔を覚えていない。なんとも失礼な話である。

ある日、同じ情報の授業を担当している先生に誘われ、酒を飲みに行く。話が弾み、酔いが回って気分が良くなる。自分が教師になりたいいい加減な経緯や、先生をナメて、真面目に授業を受けない生徒がいること、なかなか生徒の顔を覚えられないことなど、悩んでいることを話す。先生いわく、「不真面目な生徒に嫌われるのはマトモな授業をしている証拠」「情報のクラスは、どの先生でも顔を覚えるのが難しい。俺も覚えてない」「そんな経緯で先生になったのにちゃんと授業が出来る君は、教師の適性がある。今からでも教職を目指さないか？」と、篤い励ましの言葉をいただく（ただの酔っ払い？）。自分の授業のやり方は間違っていないのだと、自信を持つ。

1クラスの授業は週2時間で、3クラスを担当している。非常に短い時間ではあるが、生徒と接していると「先生の授業が好き」とか、「このまま先生になればいいのに」と言われることがある。気持ち少し揺れたこともあるが、今は教員を目指す気はない。いつかやりたくなったとしたら、そのときに教員免許を取り、教員採用試験を受けるつもりである。

私がパソコン以外で、生徒に教えられること。教えたいこと。「できる、できないではない。やるしかない。そのくらいの度胸と、責任感を持って。」教師生活、あと半年。これを陳腐な言葉ではなく、態度で示せるような教師でありたい。



Ⅲ 総合文化祭報告

第58回弘大祭を終えて

弘前大学学祭本部実行委員会
委員長 米田 文彦



10月26日から28日の日程で行われた、第58回

弘大祭は「華～はな～」のテーマのもと、無事に終える事ができました。1日はぐずついた天気で、中止になったイベントもありましたが、2日目以降は晴天に恵まれ、来場者数はのべ5000人を超えました。最終日には、スタンプラリーの台紙や大抽選会の抽選券がなくなってしまうという、昨年以上の盛り上がりを見せました。

「華～はな～」というテーマには「観客に感動を呼び起こす魅力」という意味があり、華やかで盛り上がっている、人々を魅了する、学生だけではなく地域の方々にも気軽に足を運んで頂ける、そのような場になるよう実行委員一同準備に取り組みました。当日は家族連れや、小学生からお年寄りまで幅広い年齢層の方々に来場して頂く事ができ、テーマに込めた想いは実現できたのではないかと思います。中には「去年も来たんだ」と言ってくださる方もおり、ようやく弘大祭が地域に定着してきたなと感じます。

総合文化祭は、学生が主催する弘大祭+教職員が主催する学術文化祭がひとつになった、全国でも希な大学祭です。今年で第7回目を迎え、運営体制も整い、模擬店やイベント数も年々増加し、規模を拡大し続けています。しかし、今年は総合教育棟改修工事と日程が重なり、使用できる部屋が限られ、泣く泣く出店を断念したという団体もあります。改修工事がなくとも、このまま規模を拡大していくと部屋数は足りなくなります。各方面との協力体制を強め、部屋数を確保する事が今後の課題です。

昨年よりも今年、今年よりも来年とまだまだ弘大祭を盛り上げる事ができると思います。学生のみならず、来年もぜひ参加してください!! そして、一緒に弘大祭を盛り上げていきましょう!! 学生の方で弘大祭・総合文化祭をより良いものにできるはずですよ。



弘前大学と包括協定を結んだ弘前市のブース



弘前大学と包括協定を結んだ鱒ヶ沢町のブース





壮観なよさこい弘大合同乱舞



駅伝弘前大学若手職員チーム“Stars”の皆さん



Final Festivalの学長主役イベント「じゃんけん大会」での1コマ



賑わいを見せるお祭ストリート



理工学研究科の前まで出張販売にきた農学生命科学部の学生



IV 研究室紹介

がん自動診断装置の開発を目指すプロジェクトY



保健学研究科医療生命科学領域
病態解析科学分野

佐藤 達資

はじめに

研究室の教員は私一人で一人研究室といった状況です。しかし学生は医学部保健学科検査技術科学専攻卒業生が2名、大学院修士課程2年生が2名、大学院博士前期課程1年生が2名、大学院博士後期課程1年生が2名とにぎやかです。

がん自動診断装置の開発を主たる研究テーマとし、紫外線顕微鏡、リンゴポリフェノール等に関する研究をしています。

本研究の発端は医療技術短期大学部時代の1995年まで遡ります。臨床検査技師教育の病理標本作製でがん細胞は危険だから赤、良性細胞は安全だから青に染め分け出来たらいいなと考えたのが本研究のスタートで、プロジェクトYを立ち上げました。

プロジェクトY

NHK総合テレビのドキュメンタリー番組である「プロジェクトX ～挑戦者たち～」は2005年で終了してしまいました。Xを失いながらもXを超えることを願い、「がん自動診断装置の開発を目指すプロジェクトY」と称し、200Y年末までにかん自動

診断装置の完成を目指しております(図1)。

がんの病理組織診断

がんの診断プロセスにおいて、確定診断となるのが病理専門医による診断です。肺癌、乳癌、前立腺癌等の増加に伴い臨床医から病理診断の要望は著増しています。ところが病理専門医は全国で約1,900人程度と内科専門医の約75,000名に比較して極端に少なく、病理専門医への要望は年々増加しています。しかも病理医の構成比率は50歳以上が全体の約50%以上を占めており高齢化がすすんでいます。国民すべてが平等に安全性の高い医療を享受できるように病理専門医不足に適切な対応策をとることからも、がん自動診断装置の開発は意義深いと思われる。

病理組織診断は細胞の形状や組織構築の異常等の2次元情報によってなされています。胃癌等の病理組織診断は癌取り扱い規約に基づき病理専門医が2次的に、その生検標本の

判定をGroup I～V (Group I:正常組織、Group II:異型を示すが良性、Group III: 良性と悪性の境界病変、Group IV: 癌が強く疑われる病変、Group V: 癌) に分類します(図2)。

森内が提唱しているがんの診断における核膨隆サイン(NBS:Nuclear Bulging Sign)に基づき共焦点レーザー顕微鏡等を駆使して、図3の如く3次元解析による正常細胞と癌細胞とを鑑別する所見でがん細胞は陽性を示します。

NBSはガラス標本上で1μm前後のフォーカスのずれの間にガラス面から遠ざかる方向に核構成物が延びていく像です。HE染色標本の光学顕微鏡像とPI染色標本の共焦点レーザーキャン顕微鏡像の画像解析でがんの診断を試みています(図4)。

がん自動診断装置の開発

がん自動診断装置の開発にはバーチャルスライド作製システムが必須であると判断し、2001年10月から三浦富智、野坂大喜とともに株式会社ダイレクトコミュニケーションズの



図1 がん自動診断装置の開発を目指すプロジェクトY

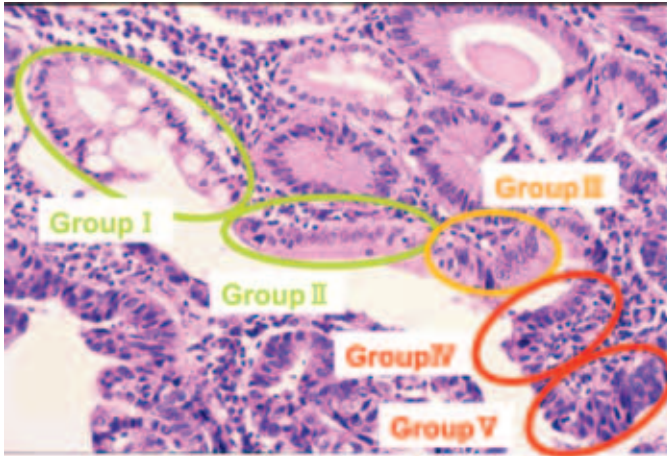


図2 胃生検組織診断分類 (Group分類)

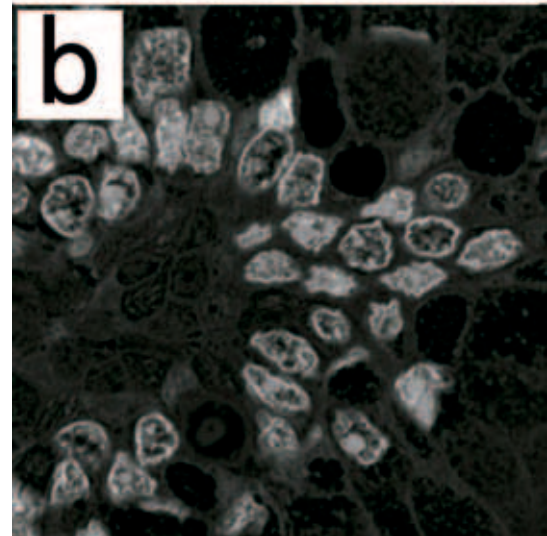
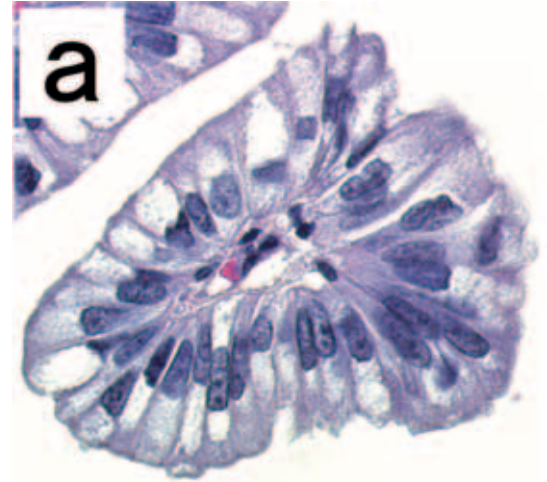


図4 NBS解析に用いる画像
(a) HE染色画像、(b) PI染色共焦点レーザー走査顕微鏡画像。

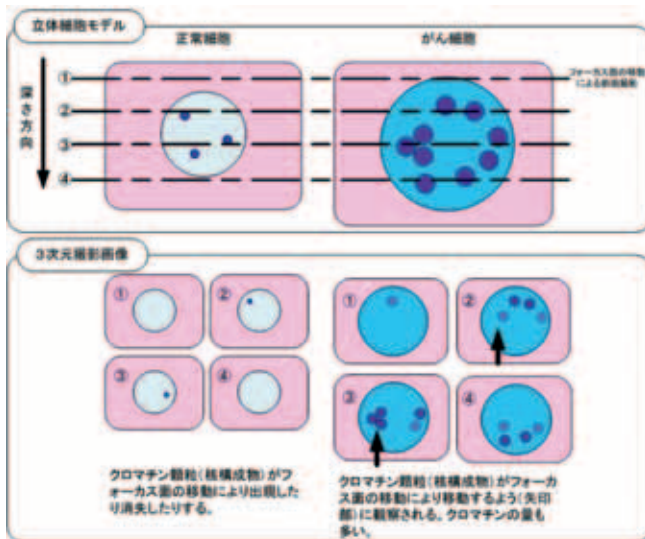


図3 NBS:Nuclear Bulging Signに基づく正常細胞と癌細胞との3次元解析鑑別法

高松輝賢、鄭衆喜と共同開発に着手しました(株式会社ダイレクトコミュニケーションズは2003年に弘前大学発ベンチャー企業となり2007年1月に社名を株式会社クラー口と変更しました)。

バーチャルスライドとは顕微鏡で観察するスライドガラス上の標本全体を高倍率で撮影し、PC上で観察可能な電子化された高精細全体画像を意味します。バーチャルスライド作製システムは、欧米での普及率が高まり、我が国においても病理学会やテレ

パノロジー研究会等でその有用性が認められています。

バーチャルスライド作製システムにはラインセンサ方式とエリアセンサ方式とがあります。エリアセンサ方式は3次元解析に対応可能ですが開発にはより高度な技術が必要です。3次元解析を必要とするNBSに基づくがん自動診断装置のためにエリアセンサ方式のバーチャルスライド作製システム「VASSALO」を2003年に開発しました。さらに2007年2月コンパクトデジタルスライドス

キャナー「トコ」を完成させ、がん自動診断装置の開発にさらに一歩近づくことが出来ました。

おわりに

がん自動診断装置の開発期限を2007年と設定しました。我々は今後の2年間で自動診断装置を完成させるために全精力を注ぎ、がんによる死亡率の減少に寄与したいと考えております。



西安近郊の華山に登頂しました。大変きつい山登りでしたが、頂上の風景は格別でした。特に、空の青さが印象的です！

名な氷の祭典も見ず、部屋から出ないでハルビンの厳しい冬を過ごしました。せっかく、留学に行ったのに何しているんだ!?なんて、声があがりそうですが、私にとってはそれが一番の幸せだったのです。更に、冬の後半は、北京への南下計画を企て、北京で暮らし、すっかり北京っ子になりました。その後、北京の冬もなかなか辛いと悟った私は、ついに実家へと一時帰国まで果たしました！（皆さん、感心なさらないでしょうか…）

私に変化があったのは、その一時帰国の後でした。短い期間を日本で過ご

し、中国へとまた帰ってきた私の目に飛び込んできたのは、それまで私の目に映っていた中国とはまるで違うものでした。一時帰国する前は、中国を悲観的に見るが多かったのですが、その見方が、がらりと変わりました。というのは、実は私、一時帰国している間に日本に大きく失望してしまったのです。私の知っている日本はこんなものだったのか、これほどのものだったのかと…本当に失望していました。その後中国に戻り、私の感じた中国はとてもエネルギーで、人々は生き活きして、時間がゆったり流れていて、そして、日本にはないパワーに溢れていました。それからの半年、私は何かが吹切れたようにスッキリしていました。そして、一時帰国前の半年より、明らかにもっと充実した、忙しい中国での生活を送っていました。新しい生活への後悔と不安から始まった留学生活ですが、8月に帰国する頃にはそれが嘘のようになっていました。そして、留学で得られるものは、語学

力だけではないのだなとしっかり感じ取っている私が居ました。今、弘前でこの文章を書いているのですが、一年間中国へ飛び出し、生活したこと何の後悔もありません。私の留学を支えてくれ、背中を押してくれた沢山の方々への感謝の気持ちでいっぱいです。

「留学したいな」と悩んでいる皆さん！物事の始まりに不安は付き物です。思い切って海外に飛び出してみてはいかがでしょうか？きっと、そこには素敵な体験が待っているはずですよ！



大学で日本語の授業を担当していた時。クラスみんなと私。年が2歳しか、違わなかったのですが、なぜか若くて可愛らしくみえました！元気のある素敵なクラスでした。

憧れの『アメリ』の国へ

人文学部情報マネジメント課程 4年 三浦彩乃



クラスの友達とお寿司パーティー。友達はのり巻を切るのに苦戦中!! お寿司は大好評でした。

私は2006年9月から2007年7月までの10ヶ月間、フランスのボルドー第3大学に留学し、フランス語を勉強してきました。ボルドー第3大学の敷地内にDEFLEというフランス語学校があり、そこに通っていました。留学して一番よかったと思うことは、いろんな人やものに出会えたことです。私が通っていたDEFLEというところには、国籍も、性別も、話す言葉も違ういろんな人がいました。皆フランスに来た理由、フランス語を勉強する目的もさまざまです。フランスの

大学に入るためだったり、交換留学生だったり、結婚するためだったり、とにかくいろんな人がいるのです。そして私はそこで、多くの友人と出会いました。勉強熱心で、とにかく前向きな韓国人、笑顔がかわいいメキシコ人に、料理と絵が上手なペルー人、とっても優しいチリ人に、クールな台湾人などなど、国籍も言葉もバラバラなのに、なぜか仲良くなってしまうものなのです。特に同じクラスだった韓国人の女の子とは、家も近かったこともあり、よく遊んでいました。片言のフラ



多文化タブンカ多分、可☆

人文学部情報マネジメント課程 4年

齋藤 奈美子

2007年3月、3年半ぶりに帰国しました。逆浦島太郎を経験するのかと思っていましたが、そうでもなかったです。周りの友達に恵まれたせいかな、まるでいなかった時が無かったかのよう順応し、弘前でのびのびと大好きな日本食を食べて暮らしています。

私の留学は少しユニークです。期間が少々長かったこともそうですが、5カ国の大学で勉強しました。韓国、タイ、ルーマニア、ニュージーランド、そしてチリです。東アジア、東南アジア、東欧、オセアニア、そして南米へと渡ったこととなります。日本の中だけを見ても地域が違えば、方言も、食べ物も随分と違いが出るのに、国が変わるとなおさらです。言葉には苦労することも多々ありましたが、食べ物は十分堪能しました。ここで私が食べた面白い食べ物を紹介すると、韓国で食べた生の魚の目、タイで食べたダチョウ、ルーマニアで食べた牛の胃、ニュージーランドで食べた芋虫、チリで食べた血のソーセージなどです。ちょっと面食らってしまうこともありましたが、せっかくだからと思って食べてみると、結構美味しいものもあります。もちろん、「面白い」食べ物だけではなく、皆さんが思わず唾を飲み込むような、魅惑の食べ物もたくさん

あります。

学期中は毎日大学へ通いました。そういう風に考えてみると、弘前大学にいたときとあまり変わらない生活をしていて、と言えるかもしれません。朝起きて大学に行き、勉強をして、ご飯を食べて、友達と遊んで、課題活動をして、帰って宿題をして、そしてたっぷり寝ます。予想できないこともしばしば起こるので、何事にも備えて、心身共に健康を保つことはとても大切です。この私なりの「変わらない」健康管理が、未知の国々で留学を無事終えられたことにつながったと信じています。健康管理といっても、野菜を何グラム食べるといったようなものではありません。全てにおいて無理をしないで、友達と遊ぶ時間を惜しまないことです。

私は国際政治ゼミに属しているのですが、なるべくそれに近い授業を取ろうと思っていたのですが、語学と自分の未熟さが壁となって、なかなか上手くいきません。今まで書いたレポートを見直してみると、焼いて捨



(韓国1) 釜山は海が近く、活気のある所です。海の幸もとても美味しいです。囲みに右下のテントの下には、たくさんのシーフードが売られていました。



(韓国2) ハンボックと呼ばれる韓国の衣装です。大学の授業の一環で着ました。



(タイ1) タイは仏教国です。お寺が金色で、日本のお寺のイメージとの違いに驚きましたが、装飾も建築もとても立派です。



(タイ2) 大学の寮の庭です。一番左側にいるのが、私のルームメイトです。その隣が私です。タイの大学には制服があります。私のルームメイトが着ているのがそうです。

VI 新任教員自己紹介

高島 克史 人文学部ビジネスマネジメント講座講師

7月より人文学部に着任しました高島です。出身は高松、大学は名古屋、大学院は神戸と、雪がほとんどふらない（ふっても積もることがない）地域で生活してきたので、弘前の冬がどのようなものなのか楽しみにしております。これまでベンチャー企業の成功要因や成長プロセスに関する研究をしてきました。まだまだ研究者としても教育者としても修行中の身ではありますが、新しい環境のもと精一杯頑張っていきますので、どうぞよろしく申し上げます。



Ⅶ けいじばんコーナー

★ 合同企業説明会開催のお知らせ

～学生就職支援センターでは、平成20年2月18日と19日に合同企業説明会を開催します～
・原則として学部3年生、修士1年生を対象にしています。

事項名	日時	場所	備考
弘前大学合同企業説明会	2月18日(月) 9:30～12:30 13:30～16:30	フォルトーナ (弘前市和徳町)	両日とも午前の部、午後の部に 分かれ、全体で四部構成で行 います。
	2月19日(火) 9:30～12:30 13:30～16:30		参加企業は、延べ約200社の 予定です。

・この外に、個別企業セミナーや学部独自で開催するガイダンスもありますので、
①学部就職用掲示物、②学生就職支援センター就職用掲示物、③本学HPを、3点セットでチェック習慣を！

就職情報ホームページのアドレス
(<http://www.hirosaki-u.ac.jp/shushoku/>)

★ 2008年3月卒業・修了する皆さんへ

皆さんの就職先、進学先が内定されましたら、学生就職支援センターへ

内定報告書を提出してください。

—内定報告書の取扱いについて—

提出されました内定報告書は、本学の就職状況調査・報告の作成及び文部科学省、青森労働局、弘前公共職業安定所への就職状況報告のために利用されます。

また、全て統計処理され個人名が特定されるようなことはありません。



奨学金についてのお知らせ

奨学金については、すべて掲示でお知らせしますので、各学部及び総合教育棟1Fの掲示に注意してください。
 奨学生の募集は、日本学生支援機構・その他の団体とも4月～5月に集中しています。
 平成20年4月からの奨学金を希望する人は、20年3月末からの掲示に注意して、期限内に申し込んでください。
 なお、窓口は学務部学生課学生生活支援グループ（医学部2年次以上及び医学研究科・保健学研究科学生は、医学研究科学務グループ）です。

日本学生支援機構奨学金

- 緊急採用・応急採用について
 家計事情急変による緊急採用・応急採用は、いつでも採用可能です。
 長雨、台風、地震などにより被害を受けた地域の学生や、家計支持者の失職・死亡等の家計急変により修学が困難になった学生は、窓口で相談してください。
- 現在奨学金を貸与されている皆さんへ（平成20年3月満期者を除く）
「奨学金継続願」に関わる「パスワード」の配付
 平成20年4月以降の奨学金継続について、「希望する」・「希望しない」に関わらず手続きが必要です。掲示板に特に注意して期限内に必ず手続きしてください。
 (1) 「継続希望」の場合は、窓口で「パスワード」を受け取り、指定された期限内にインターネットで奨学金継続願を提出してください。
 (2) 「継続を希望しない」場合は、窓口で「辞退」等の手続きをしてください。
「適格認定」の実施
 奨学金継続願を提出した人について、奨学生としての適格性を審査します。
 学業成績（取得単位不足など）によっては、「激励」・「警告」・「一ヵ年停止」・「廃止」となることもあります。
- 平成20年3月満期の皆さんは「奨学金継続願」はありません。
 「返還誓約書」を進学・留年等の事由に関わらず全員が提出することになります。
- 「特に優れた業績による返還免除」について
 平成20年3月までに貸与終了予定の大学院第一種奨学生を対象としています。
 掲示に注意して、期限内に申請してください。

日本学生支援機構以外の奨学金

平成19年度分の募集は、全て終了しています。
 平成20年3月末以降の掲示に注意してください。

❄️ Ⅳ 編集後記 ❄️

今年は夏から秋にかけて暖かく、冬の訪れはまだ先と思い込んでいました。しかし予想よりも早く、はるかに多くの雪が降りました。暖冬(?)を期待していただけに...「雪が早い年は暖冬・小雪」という経験論も怪しそうです。

さて本号の特集は「実習体験記」です。昨今、大学教育においてインターンシップ等をはじめとするユニークで多彩な実習・体験制度がいろいろ導入されています。私のような遠い昔に学生だった者にとっては、羨ましくもある反面なにか違和感を感じる部分もあります。それぞれの体験記を読むと、現実の社会に実際に接することの大切さや重要性について再認識できます。ただ逆に、現実社会との距離がますます離れていることを意味しているのでは? 社会の発展に伴いそれぞれが専門化しているのも確かです。でも一方で介護施設と核家族化の関係でみられるような家族形態、さらには日本の社会・未来はこれで良いのだろうか、と考えさせられてしまいます。

本当に今年は目や耳を覆いたくなるような信じがたい嫌な事件や事故等が数多く起きました。この傾向は年々増加しているようにしか思えません。でもこんな時代だからこそ、この雪は「ホワイト・クリスマス」という素敵な贈り物なのかもしれません。
 (ま)

2007年度度公務員・教員試験対策講座の報告

弘前大学生協は弘前大学及び教育学部就職対策委員会との共催により、公務員・教員試験対策講座を毎年実施しています。2008年度採用試験は公務員・教員とも、これまでの最高の合格者数（複数合格を含む）を講座として出すことができました。

講座名	2007年度受講者数	合格者数
公務員試験対策講座	143名	48名
教員試験対策講座	174名	85名

（※合格者数は合格者本人からの延べ報告数、2007年11月15日現在）

これは受講生同士がお互いの切磋琢磨で長期間にわたりモチベーションを維持できたこと、弘前大学や教育学部の試験対策指導と面接対策等の講座プログラムが充実したことが要因と考えられます。

2009年度採用予定の教員試験対策講座は既に関講されていますが、受講者以外の方も対象にオプション講座や模擬試験の実施を予定していますので、シェリア店から発信される講座情報にぜひ関心を寄せてください。また、公務員試験対策講座は2008年3月に内容を確定し、DM等で現2年生の方にご案内いたします。（DMは3月末までにご実家宛に送付します）



（現在実施中の公務員試験対策講座）

【2009年度採用公務員試験対策講座 募集と開講予定】

- ・ 2008年4月中旬公務員ガイダンス（弘前大学主催）
- ・ // 4月下旬頃より募集開始
- ・ // 5月初旬受講生ガイダンス
- ・ // 5月下旬開講（予定）

生協から年末年始営業日程をお知らせします

店舗名	日（曜）	12/27（木）	12/28（金）	12/29～1/3	1/4（金）	1/5（土）	1/7（月）
文京食堂	カフェテリア	営業 10:30～14:30 営業 17:00～19:30	営業 10:30 ～14:30	全 店 閉 店	営業 11:30～14:30 （夕方営業なし）	閉店	通常 営業
	麺コーナー	営業 11:00～14:00	閉店				
	おやつ屋	12/26より閉店			1/9まで閉店、10日より営業		
レストラン	営業 11:30～15:00	閉店	閉店		通常 営業		
医学	会館店	営業 10:00～17:00				閉店	
	クローバー	営業 10:00～15:00				閉店	
	ポム	営業 11:30～13:30				閉店	
サリジェ（コンビニ）	営業 8:00～20:00		閉店			閉店	
シェリア（大学会館）	営業 10:00～18:00		閉店			閉店	
総合リビング（不動産）	営業 10:00～15:00		閉店			閉店	
生協本部・経理	営業 10:00～17:00		閉店	閉店			

※12月、1月は上記以外でも営業時間の変更がありえますので、12月配布予定の営業時間案内チラシでご確認ください。



弘前大学 学園だより Vol. 157
2007年12月発行

学園だよりに関するご意見がございましたら、
下記のアドレスまでお寄せ願います。
e-mail jm3113@cc.hirosaki-u.ac.jp
弘前大学学務部学生課

国立大学法人 弘前大学
「学園だより」編集委員会
委員長
氏家良博(教育・学生委員会)
委員
渡辺麻里子(人文学部)
北原啓司(教育学部)
松谷秀哉(医学研究科)
鈴木光子(保健学研究科)
遠田義晴(理工学研究科)
比留間潔(農学生命科学部)
笹森利通(学生課)
石岡勝彦(学生課)
印刷：やまと印刷株